



小野田 由紀子 議員

防災対策について

問 大規模災害時の支援物資供給の円滑化は。

答 地域内輸送拠点運営訓練で拠点の開設、支援物資の受付・管理、避難所への物資配分等、一連の流れを確認し、さまざまな課題を把握した。物流管理の高い

ノウハウを持つ企業と災害協定による打ち合わせを重ねており、役割分担を図って支援物資の円滑供給の体制づくりを進めていく。

問 液体ミルクを導入するなど、災害時備品の充実は。

答 福祉避難所4施設で粉ミルクを備蓄しているが、更新時期に合わせて液体ミルクの備蓄も検討していくとともに、1本でご飯1杯分の栄養補給ができる羊羹（ようかん）、イージーアップ（簡易組立型）テント、カセットガスを燃料とする発電機等を備蓄していく。

問 高浜市全体の災害対応力の向上につながる地区防災計画の策定は。

答 現在、まちづくり協議会で地区計画が策定されており、現計画の発展形として地区防災計画の策定も進めていく。企業、学校、福祉施設などのあらゆる単位を対象にしており、今後、本制度の周知に努めていく。

福祉行政について

問 引きこもり対策の取り組み状況、「8050」問題の今後の取り組みは。

答 80歳の方は、地域包括支援センターでの支援。50歳の方は臨床心理士が、自立に向けては生活困窮者自立支援機関が支援し、一つの建物の中で情報を共有し、連携して世帯丸ごと支援をする体制を整えている。中学校を卒業した若者の引きこもりは、子ども健全育成支援員を中心に早期のアウトリーチによる相談支援で、引きこもりの長期化防止に努めている。

問 風しん対策として無料の抗体検査、ワクチン接種の今後の取り組みは。

答 平成31年度は、昭和47年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性を対象にクーポン券を送付して抗体検査を促し、陰性の方にワクチン接種を行っていただく。



黒川 美克 議員

情報公開について

問 勤労青少年ホーム跡地発生土等運搬処理業務に係る裁判所との協議で、どのような準備書面を提出されたのか。

答 設計書は業者の参考見積りに基づき作成するものがあり、1点目として、公開されることで今後の設計見積協力や設計業務、

予定価格設定に支障が生じないかということ。2点目として、設計書の公開で類似工事の入札に支障が生じないかということを主張している。

勤労青少年ホーム跡地活用事業について

問 青少年ホーム跡地発生土等の処理費用（入札辞退等もあって金額が変わってきているが）の2億4,500万円の交渉過程と、処理費用の根拠を明らかにしてください。

答 昨年7月には、市内事業所で年月をかけ、少しでも安価での施工を目指してきました。10月には7社の入札辞退と契約辞退があり、再入

札も課題が多く、適正入札ができるかという問題もあった中で、プールやテニスコートが4月1日にスタートできるか栗本建設工業(株)に負担金方式での打診をしたところ、「私どもが掘り起こす前に埋設物がある前提なので、それは市で処理していただけないか。」との回答でした。そこで指名競争入札や1者随意契約等の検討をいろいろしてきました。大切だと感じているのは、跡地活用事業者の(株)コパンから栗本建設工業(株)に「いろいろ問題はあってもいいが、御社で直接処理をしていただけないか。」というような打診をされたようで、その中で今回のように進めてきたということです。単価等は、栗本建設工業(株)が承知できる安全性の高い処理方法と信頼性の高い業者をお願いをしたいとのことであり、これは市として了とせざるを得ませんが、やっていく中で経費の削減ができるはずなので、それは負担金に反映させてほしいという協議をしています。根拠等の提出は議員からの資料要求と受け止めており、地方自治法でも最大限対応しなければならないが、個別の判断でもあり、根拠や金額の正当性等をこの場でお示しすることは差し控えたい。